

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	葦原 恭子		所 属	留学生センター	
職 名			准教授		
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	<p>1.共通教育科目「日本語ⅢA/ⅣA」及びURSEP科目「Japanese listening」「Academic Japanese」を担当する際、学生のニーズ及びレディネス調査を十分にを行い、レベルとニーズに合わせるため極力自作作成教材を使用し、質の高い授業を行う。課題を適宜提示し、フィードバックを適切に行うことで学生の能力を効果的に向上させる。</p> <p>2.大学進学を希望している科目等履修生には日本留学試験に関する質問を適宜受け付け、自主学習の手助けをし、卒業後に日本または沖縄で就職を希望している短期留学生の就職相談に応じる。</p> <p>3.短期交換留学日本語日本文化研究コースの学生の研究レポートの指導を行い、レポートを完成させ研究発表させる。</p> <p>4.アジア人財プログラムの修了生に追跡調査を実施し、ビジネス日本語科目のシラバス改善に役立てる。</p> <p>5. 法文学部の専門科目である日本語教育副専攻の日本語教授法の講義で学生のニーズとレベルに合わせるため、自作作成教材を使用し、質の高い授業を行う。また、学生の進路相談に応じ、ニーズに合わせて適切なアドバイスをする。</p>	0.30	<p>1.共通教育科目「日本語ⅢA/ⅣA」及び大学院生・研究生・URSEP生対象科目「Japanese listening」「Academic Japanese」を担当する際、学生のニーズ及びレディネス調査を十分にを行い、レベルとニーズに合わせるため極力自作作成教材を使用し、質の高い授業を行うよう努めた。課題を適宜提示し、フィードバックを適切に行うことで学生の能力を効果的に向上させた。</p> <p>2.大学進学を希望している科目等履修生には日本留学試験に関する質問を適宜受け付け、自主学習の手助けをし、卒業後に日本または沖縄で就職を希望している短期留学生の就職相談に応じた。</p> <p>3.留学生センターで学ぶ大学院生、研究生の博士論文、修士論文、レポートの日本語添削と発表指導を行い、論文完成の一助となった。</p> <p>4.アジア人財プログラムの修了生に追跡調査を実施し、ビジネス日本語教育の向上のみならず、修了生の定着支援に貢献した。</p> <p>5. 法文学部の専門科目である日本語教育副専攻の日本語教授法の講義で学生のニーズとレベルに合わせるため、自作作成教材を使用し、質の高い授業を行った。今年度は「日本語教授法」「日本語教材研究」を二科目を担当した。また、学生の進路相談に応じ、ニーズに合わせて適切なアドバイスをし、東京の日本語学校への就職をサポートする、海外の大学(米国立リッチモンド大学、ウェリントンヴィクトリア大学)へTAとして派遣するなどした。</p> <p>6.法文学部から依頼を受け、「キャリア概論」で日本語教育と日本語教師という仕事について紹介する講義を行った。</p>	
研究	0.30	<p>1. 科学研究補助金基盤研究(c)「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワーク構築のための調査研究」課題番号15K02644の研究代表者として、研究全体を統括し、平成27年度の研究計画を効果的に進めるよう努力する。</p> <p>2. 県内の学術雑誌に現在執筆中の沖縄の地域共通語に関する研究論文を投稿する。</p> <p>3. 留学生センター紀要に現在執筆中のインターンシッププログラムに関する研究論文を投稿する。</p> <p>4. 沖縄県日本語研究会で口頭発表をすべく、研究成果をまとめる。</p>	0.30	<p>1. 科学研究補助金基盤研究(c)「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワーク構築のための調査研究」課題番号15K02644の研究代表者として、研究を統括し、全10回の研究会を実施した。今年度の研究成果は2016年日本語教育国際研究会(於・インドネシア)で発表すべく、応募した。</p> <p>2. 琉球大学の平成27年度中期計画達成プロジェクト経費戦略的研究推進経費・戦略プロジェクト研究チームの一員となり、アルゼンチンに調査出張し、その成果を法文学部移民研究センター学術誌『移民研究』に研究論文を投稿し、採択された。(3月末刊行)</p> <p>3. 留学生センター紀要にインターンシッププログラムの効果に関する研究論文を投稿し、採択された。(3月末刊行)</p> <p>4. 沖縄県日本語研究会で1の科費研究の研究成果の一部を口頭発表した。</p> <p>5.琉球大学大学教育センター報に「日本語学習者の聴解ストラテジーに関する言語リブ」に関する研究論文を投稿し、掲載された。</p> <p>6.日本語教育学会誌に投稿し、掲載された研究論文「「高度外国人材のビジネス日本語能力を評価するシステムとしてのビジネス日本語Can-do statementsの開発-BJTビジネス日本語能力テストの測定対象能力に基づいて-」が優秀論文として「林大記念論文賞」を受賞した。</p>	
社会貢献	0.15	<p>1. インターンシッププログラムのコーディネータとして、琉球大学日本企業インターンシッププログラムを実施し、沖縄県内で就職意欲がある留学生を発掘し、県内企業に優秀な留学生を就職させるべく努力する。</p> <p>2. 学外の留学生に対する就職支援に関する補助金募集に応募し、補助金を獲得するよう努力する。</p> <p>3. 県内の高校の外国語クラスに留学生を派遣するなどして、文化交流を推進する。</p>	0.15	<p>1. インターンシッププログラムのコーディネータとして、2015年8月～9月と2016年2月～3月に琉球大学日本企業インターンシッププログラムを実施し、沖縄県内で就職意欲がある留学生を発掘し、県内企業に優秀な留学生を就職させるべく努力した。</p> <p>2. 文部科学省の住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業への応募に際し、申請書作成、ヒアリング用資料作成に貢献し、補助金を獲得した。</p> <p>3.2の住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業のコーディネータとして事業の運営、発展に努めた。</p> <p>4.3の事業について27年度の成果を留学生交流実務担当者養成プログラム(報告会)にて発表した。</p>	
管理運営	0.15	<p>1.STRPプログラム及びURSEPプログラムの受け入れ担当教員としての責務を果たし、プログラムの発展のためにJASSOの奨学金を獲得する、協定校を訪問するなどして、交換留学による交流を促進する。</p> <p>2.琉球大学の大学院生・研究生に対する日本語コースのコーディネータとしての職務を果たす。</p> <p>3.短期留学プログラム実施委員会の委員として、与えられた職務を全うする。</p> <p>4.国内の進学説明会や、海外の留学フェアに積極的に参加し、学生の獲得に努める。</p> <p>5. ハラスメント防止委員会委員としての職務を果たす。特にハラスメント調査委員としての責務を与えられた時はさらに尽力する。</p>	0.15	<p>1.STRPプログラム及びURSEPプログラムの受け入れ担当教員としての責務を果たした。また、協定校であるミシガン州立大学を訪問し、交換留学による交流を促進し、交換留学生の獲得に努めた結果、2016年10月に交換留学生1名が来沖することになった。</p> <p>2.大学院生・研究生に対する日本語コースのコーディネータとしての職務を果たし、センター提供科目に履修登録した学生は50名以上に上った。</p> <p>3.短期留学プログラム実施委員会の委員として、与えられた職務を全うした。</p> <p>4.東京の進学説明会とミシガン州立大学の留学フェアに積極的に参加し、学生の獲得に努めた。</p> <p>5. ハラスメント防止委員会委員としての職務を果たした。特にハラスメント調査委員としてハラスメント調査に尽力した。</p> <p>6.日本人学生の交換留学派遣面接の面接官としての職務を果たした。</p> <p>7.JASSOの奨学金獲得のために、STRP、アジア双方向プログラム、欧州双方向プログラム、米国立双方プログラム、インターンシッププログラムの申請書類を作成した。その結果、STRP、アジア双方向プログラムは採択となり奨学金を獲得し、他の3プログラムはAランクの評価を受けた。</p>	
国際交流	0.10	<p>1.交換留学担当者として、積極的に海外の留学フェアに参加し、留学生の受け入れ数の増加を促進する。</p> <p>2. 協定校と密に連絡を取り、ニーズに応える努力をし、交換留学制度を発展させる。</p> <p>3. 新たな協定校を開拓すべく、協定校を訪問するなどして、短期留学プログラムの普及に努める。</p>	0.10	<p>1.交換留学担当者として、積極的にミシガン州立大学の留学フェアに参加し、留学生の受け入れ数の増加を促進した。</p> <p>2.将来の交流協定締結を見据えてアメリカのイースタンミシガン大学を訪問し、交渉にあった。</p> <p>3.アルゼンチンのラプラタ大学との交流協定締結のためにラプラタ大学を訪問し、担当者に交渉した。</p> <p>4. アルゼンチンの日亜学院で琉球大学に関するプレゼンテーションを行い、琉球大学の広報および学生獲得の一助となった。</p>	
計	1.00		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)													
名 前		佐々木香代子.		所 属		留学生センター		職 名		准教授			
領域		業務 ウェイト比 (予定)		平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)		平成27年度 年度末自己点検結果					
教育・学生支援		0.20		<p>①授業内容およびレベルが履修登録した学生のニーズに合うよう、授業実施前にアンケートを行い、その結果を基にシラバスに適宜変更を加える。あるいは、学習者の反応を見て教材に修正を加えるなど授業の質の向上に努める。</p> <p>②共通教育科目「キャリアデザインとジェンダー」の講師の一人として、講義を行う。</p> <p>③「留学生を受け入れている指導教員のためのインフォメーションブック」を更新する。</p> <p>④学内外からの進学についての問い合わせに対応し、指導する。</p> <p>⑤県内の日本語学校に、オープンキャンパスの案内を出し、オープンキャンパスに來訪した留学生に情報を提供する。また、日本人学生に対しては、「短期留学」の宣伝に努める。</p>		0.20		<p>①履修登録した学生のニーズに合うよう、授業実施前にアンケートを行い、その結果を基にシラバスに適宜変更を加えた。また、共通教育の日本語の授業では、学習者の知的好奇心や学習者間の異文化理解を促すため、アカデミックなトピックでシラバスを組み、内容優先型の授業を行った。</p> <p>②共通教育科目「キャリアデザインとジェンダー」の講師の一人として、講義を行った。</p> <p>③「留学生を受け入れている指導教員のためのインフォメーションブック」を更新した。</p> <p>④学内外からの進学についての問い合わせに対応し、指導した。</p> <p>⑤県内の日本語学校に、オープンキャンパスの案内を出し、オープンキャンパスに來訪した留学生に情報を提供した。また、日本人学生に対しては、「短期留学」の宣伝に努めた。</p>					
研究		0.35		<p>①昨年度まで、うない研究者支援センターの研究補助員制度を利用して開発していた「知的障害児の言語獲得をサポートするための絵教材」の検証実験を行い、それを基に、助成金の申請を行う。</p> <p>②沖国大の特別研究費を使って、(沖国大の)共同研究者とともに、沖縄語の継続調査・研究を行う。</p> <p>③「研究②」の共同研究者とともに開発を進めている「外国人のための沖縄語学習教材」を完成させ、出版の段取りをつける。</p>		0.30		<p>①昨年度まで、うない研究者支援センターの研究補助員制度を利用して開発していた「知的障害児の言語獲得をサポートするための絵教材」の検証実験を行ったが、実験を行った機器の性能に制約がありデータの収集が難しく、現在、他の機器による方法を模索中である。</p> <p>②沖国大の特別研究費を使って、(沖国大の)共同研究者とともに、沖縄語の継続調査・研究のため、県内在住外国人を対象に調査を実施中である。</p> <p>③「研究②」の共同研究者とともに開発を進めている「外国人のための沖縄語学習教材」を、ほぼ完成させた。来年度、出版の段取りをつける予定である。</p>					
社会貢献		0.25		<p>①「知的障害児の言語獲得をサポートするための絵教材」を、学外の障害児教育従事者と連携しながら開発を進め、HPIにUPし、知的障害児の教育に携わる人々が自由に利用できるようにする。</p> <p>②「留学生のための災害対応マニュアル」を地域在住外国人向けに手直しし、留学生センターHPIにUPし、災害時の対応について外国人が自由に情報を入手できるようにする。</p> <p>③9月に実施する海外移住者子弟研修のコーディネーターとして、研修をコーディネートする。</p>		0.30		<p>①「1」知的障害児の言語獲得をサポートするための絵教材」を、学外の障害児教育従事者と連携しながら開発を進めた。HPを随時更新し、知的障害児の教育に携わる人々が自由に利用できるようにした。</p> <p>①-2県内中学校の特別支援学級(知的障害)の授業をサポートするための教材を開発し、提供した。来年度以降、同級教員のフィードバックを踏まえ、①のHPIにUPしていく予定である。</p> <p>②今年度は内容の更新に追われ、また、予算が獲得できなかったこともあり、「留学生のための災害対応マニュアル」の地域在住外国人向け手直しは出来なかった。</p> <p>③海外移住者子弟研修(9月実施)のコーディネーターとして、研修をコーディネートした。</p>					
管理運営		0.10		<p>①ハラスメント相談支援センター相談員として、対応に努める。</p> <p>②「留学生のための災害対応マニュアル」を更新する。</p> <p>③日本語教育副専攻の副主任として、学生の履修指導およびカリキュラムの調整に努める。</p>		0.10		<p>①ハラスメント相談支援センター相談員として、相談業務を行った。</p> <p>②「留学生のための災害対応マニュアル」に新たな項目を加え、従来の内容を更新し、現在、印刷中である。なお、冊子は来年度から配布し、留学生センターHPも更新予定である。</p> <p>③日本語教育副専攻の副主任として、学生の履修指導およびカリキュラムの調整に努めた。</p> <p>④留学生センターのニュースレターのスタイルを一新した(2月中に留学生センターHPIにUP予定)。</p>					
国際交流		0.10		<p>①地域の小中高等学校の児童・生徒と留学生との交流を図る。</p> <p>②久米島ホームステイを9月に実施する。ステイ期間中に留学生と久米島高校の生徒が交流できるように、久米島高等学校と調整する。</p> <p>③留学生まつりを7月11日(土)に実施し、留学生と地域の人々との交流を図る。</p> <p>なお、病気や事故などが起きないよう、留学生の指導に努める。</p>		0.10		<p>①本島内では地域の小中高等学校の児童・生徒と留学生との交流会は実現できなかった。</p> <p>②久米島ホームステイを9月11日(金)～14日(月)に実施し、ステイ期間中に留学生と久米島高校の生徒との交流を行った。</p> <p>③留学生まつりを7月11日(土)に実施し、留学生と地域の人々との交流を図った。なお、病気や事故などが起きないよう、留学生の指導に努めた。</p>					
計		1.00		<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00		<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		山元淑乃	所 属		留学生センター
			職 名		講師
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.20	協働学習を取り入れ、学習者主体の授業を行う。多人数のグループ学習が円滑に進むよう授業運営を工夫する。授業に対する受講者の反応を確かめながら進め、効果を教育的に検証し、研究につなげ、かつ授業運営に取り入れる。「総合日本語A」「総合日本語B」のコーディネーターとして、非常勤教員と連携し、カリキュラムの改訂を続ける。定期的に指導留学生の面接を行い、生活・修学上の相談を受ける。		0.20	「日本事情」では協同学習により、小グループでの発表とディスカッションを中心とした学習者主体の授業を行った。「総合日本語B」と「文法A」でも、教師がファシリテーターに徹し、学習者が主体的に学べる環境を整え、自律した学習者の育成を目指した。「総合日本語A」に新しい教材を導入し、非常勤講師と連携を取りながら、コーディネートを務めた。URSEP留学生や院制研究生の生活面や日本語の相談を受け、適宜アドバイスやサポートを行った。
研究	0.60	科研と博士論文の研究テーマである「日本語学習者の発話キャラクタ獲得過程とその要因の解明」に関する研究を進める。		0.60	博士論文の研究テーマ「日本語学習者による発話キャラクタ獲得過程の解明」で外部資金(科研費「挑戦的萌芽研究」)を獲得した。国際シンポジウムで関連研究の発表を行った(8月)。コーディネーターを務める日本語クラスで使用した教材の教育効果を検証し、学会で発表し(7月・2月)、論文を投稿した(3月発行予定)。
社会 貢献	0.03	ホームページを通じて研究・教育内容について情報発信を行う。		0.03	ホームページやSNSを通じて、研究・教育内容について情報発信を行った。留学生と地域との交流の機会を設け、実施し、地域における草の根的な国際交流を促進した。
管理 運営	0.02	短期留学プログラム実施委員会の一人として、委員会に参加する。URSEPプログラムのコーディネーターとして運営に携わり、責任を果たす。地域貢献推進委員の一人として、委員会に出席し、責任を果たす。		0.02	短期留学プログラム実施委員として責務を果たした。
国際 交流	0.15	短期留学修了後に日本へ再留学の希望がある留学生について、情報提供等、積極的に支援する。語学教員と連携し、日本人学生の海外留学派遣を促進する。URSEPプログラムへの留学生獲得を目指し、プロモーション活動を行う。		0.15	「短期交換留学特別プログラム(URSEP)―日本人学生の国際化をめざして―」というプログラム名でJASSOの奨学金を申請し、採択されたことにより、ハワイ大学等、日本人学生が多く希望する派遣先からの受け入れを増やすことが可能である。今後はより日本人学生の留学促進に貢献できるプログラムに発展させていきたい。
計	1.00			1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	